

1:19 彼らは翌朝早く起きて、【主】の前で礼拝をし、ラマにある自分たちの家に帰って来た。エルカナは妻ハンナを知った。【主】は彼女を心に留められた。

1:20 年が改まって、ハンナは身ごもって男の子を産んだ。そして「私がこの子を【主】にお願いしたのだから」と言って、その名をサムエルと呼んだ。

1:21 夫のエルカナは、年ごとのいけにえを【主】に献げ、自分の誓願を果たすために、家族そろって上って行こうとした。

1:22 しかしハンナは、夫に「この子が乳離れして、私がこの子を連れて行き、この子が【主】の御顔を拝して、いつまでもそこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。

1:23 夫のエルカナは彼女に言った。「あなたが良いと思うようにしなさい。この子が乳離れするまでとどまりなさい。ただ、【主】がそのおことばを実現してくださるように。」こうしてハンナはとどまって、その子が乳離れするまで乳を飲ませた。

1:24 その子が乳離れしたとき、彼女は子牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携えてその子を伴って上り、シロにある【主】の家に連れて行った。その子はまだ幼かった。

1:25 彼らは子牛を屠り、その子をエリのところに連れて行った。

1:26 ハンナは言った。「ああ、祭司様。あなたは生きておられます。祭司様。私はかつて、ここであなたのそばに立って、【主】に祈った女です。

1:27 この子のことを、私は祈ったのです。

【主】は私がお願いしたとおり、私の願いをかえしてくださいました。

1:28 それで私もまた、この子を【主】におゆだねいたします。この子は一生涯、

【主】にゆだねられたものです。」こうして彼らはそこで【主】を礼拝した。

ハンナは主に祈って約束した通りにしました。それは主ご自身が、祈りに答えて真実にことを成し遂げてくださる方だからです。もしも主への約束を果たしていないことがあるなら、それは大きな損失になることでしょう。

また夫のエルカナも妻の信仰を尊重しました。「主のそのことばを実現してくださるように」というのが、夫としての本当のリーダーシップです。そのために家族の信仰を励ます必要があります。これはセルなどのグループにも言えることです。

また祭司エルは霊的には弱い人ではありませんが、ハンナは彼をその祭司職のゆえに、すなわち主が立てられたことのゆえに尊重しました。これもまた謙遜の表れであり、主がハンナを用いた理由の一つであると考えられます。人を見て評価するよりも、主の権威のゆえに、主の秩序を尊重しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

